

(現代史プリント1-3)

I. パレスティナ問題はどのようになっているのか？

NHK 特集「憎しみの連鎖はどこまで続くのか～パレスティナとイスラエル～」(02.3.31放送)から(その2)

(5) 和平交渉の経過(2)

対立が激化した中でも和平交渉は続き、2000年12月アメリカ大統領[1]の調停案が出された。

それによると[2]の94～96%をパレスティナ国家のものとし、[3]の[4]もパレスティナの主権を認めるが5_____というものであった。

これをうけ、ベンアミは調停案を[6]ようと考え、アリカットも最終合意の土台となると答え、和平交渉は解決に最も近づいたとの認識を示した。

(6) テロと報復の連鎖の激化

2001年2月、7_____を公約に掲げる[8]が首相に当選、かれは[9]を認めず、ヨルダン川西岸も[10]しか認めないと主張、和平の道は挫折した。

シャロンはパレスティナ過激派テロへの武力報復をすすめ、その矛先を[11]にも向けるようになり、ついには[12]を事実上の軟禁状態におくようになった。

かれによると、アラファトは13_____というのである。

こうしたイスラエルのやり方は[14]へのパレスティナ人の支持を強める結果となった。

パレスティナ過激派[15]の指導者ランディンは16_____と主張、[17]の再開を公的に宣言した。

また若者たちは体に弾薬を巻き付け[18]の覚悟をしめすようになってきた。

シャロンは19_____まで和平交渉には取り組まないと主張、アメリカによる[20]攻撃と同様にパレスティナをたたきだすと主張した。

こうしてかれは[21]などの自治の象徴ともいえる施設への攻撃も強めた。

(7) テロと報復の連鎖の中で

こうした動きをやめさせようとの動きもつづいている。

ベンアミ氏はパレスティナとの戦争に勝つことはありあえない、なぜなら 22_____と主張している。

またアリカット氏は、シャロンは新たに一万人の[23]を生み出し、事態の悪化を招いているとして、[24]の仲介を求めている。

ラファではイスラエルの攻撃で毎日死者がで、イスラエルに子どもを殺された母親はシャロンに同じ悲しみを与えたいと語っている。

ヤフォ通りでは、不審物の発見がつづき、治安は悪く、暮らしは悪化し人々も外出しなくなってきた。

イスラエル人の中には軍事力での治安回復というやり方への疑問がはじめ、シャロンの支持率は[25]にまでおちてきた。

ベンアミ氏は、自分が属する[26]党が[27]から離脱し、和平交渉に立ち戻ることを求めているが、党内の意見は分かれている。

ラファのカッサースさんは6歳と9歳の子どもたちが、28_____のための写真を撮ったことに衝撃を受けた。

かれは希望を持ち続けたいと考え、犠牲祭を祝い、子どもたちが29_____と願っている。

ヤフォ通りのコーヘンさんのところに、[30]にすむ[31]のナビルシーさんが妻への贈り物を買いにやってきた。

かれはコーヘンさんを友人と呼び、どのようなことがあっても見舞いに来る、自分たちの32_____は変わらない。こうした人の方が多数派だと語っている。

そして33_____は不変であり、[34]は違うが[35]はおなじだといっている。

(8) エピローグ

テロと報復はいつそう激しさを増し、3月27日には自爆テロで22名が死亡、これに対しシャロンは[36]にさえ報復攻撃を加えた。

こうして憎しみが新たな憎しみを生み、出口は見えにくくなっている。

しかしベンアミやアリカットは和平交渉による解決を探ろうとしている。

アリカットはいう。戦争をやめ平和を実現するためには[37]しかない。しかしこのことにシャロンが気づくまで38_____と。